

0. 登録番号           d-020          

## 1. 提案のタイトル

**海のENGAWA 2025**

## 2. 提案の趣旨

「いのち輝く」を実現するには人を中心とする共創だけでなく、私たち日本人が古来より培ってきた「自然との共創」、すなわち自然の営為を活かす知恵に着目したい。**海のENGAWA**は、「縁」にあやかり、家の縁側のように気軽に楽しく人が集まる心地よい場所のイメージで、日本人が大切にしたいと願っている交流や、自然と接していく次の基本姿勢を表す。

### 1. 「大阪湾」をとりまく自然と都市形成の歴史を活かしたい

大阪湾は瀬戸内海や太平洋とのつながりから古来より国際的な交流の舞台であった。豊かな自然を巧みに活用し港を開き水運が発達した水の都には、多くの苦労をも笑いに変える明るい文化が育まれた。夢洲は自然と歴史の背景を重視することで、人工島でありながら、いつしか自然の島のような環境に共創され未来に向けて多くの人々を惹きつける「縁」を呼び込む装置となっていく。

### 2. 100年後、自然の営為が息づいている「島」でありたい

万博後の100年を見据えて会場計画を行う。現在の水溜まりが自然回復のスタートと解釈し、その輪郭を手掛かりにして汽水の池を形成し生物多様性を海側から育てていく。そこへ豊かなミネラル分をもたらす山と森を（まるで元からあったかのように）で作っていく。そのプロセスを通じて多くの学びと恵みを得ていくような仕組み（プラットフォーム）の「縁」を形成し持続していく。

### 3. 2025万博施設は再利用可能な「仮設性・可動性」にこだわりたい

日本には、式年遷宮の例にみられるような資源尊重・資材活用の文化がある。この文化を生かして、パビリオン等の施設を安っぽさのない仮設建築で計画し、終了後は当該の国や地域で立派に再活用できるものとする。木造のフローティング建築技術を開発し、終了後にパフォーマンスとして海上を移動させ、科学技術と文化の「縁」を世界にひろげていく。また場内の通路網も、漁労のいかだをモチーフに、日本庭園の発想の基としてつなぐフレキシブルな配置構造としていく。

## 3. アピールポイント

夢洲のネーミングに込められた思いを察して、「未来社会の実験場」としての2025大阪・関西万博は、100年後の未来からも評価される「共創」の礎となる環境の提案に挑戦するべきと考えた。やがてこの島の周囲には海藻などが広がることで、山から海域につながる地形と緑の連鎖によって低炭素社会の「共創」の景観を象徴し、100年後には地球温暖化の問題を過去のものとする姿勢を示す。

地球環境の課題解決への「たゆみない実践」のスタートは「待ったなし」であり、100年スパンの実験・実行の輪を世代や国地域を超えた「つながり・ひろがり」のある本物としたい。